

「MY TREE 父親プログラム」の効果測定(2021～2024 年度)

1. 目的

「MY TREE 父親プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREE 父親プログラム」の効果について分析を行いました。

2. 調査方法

2-1 調査対象

調査対象は、2021 年度に「MY TREE 父親プログラム」に参加した実施した 6 人、2022 年度に参加した 12 人、2023 年度に参加した 5 人、そして 2024 年度に参加した 7 人の合計 30 人です。

参加者の平均年齢（±標準偏差）は、表 2-1 に示すように、40.3（±8.0）歳、最小年齢 25 歳、最大年齢 58 歳でした。

表 2-1 参加者の平均年齢

	人数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
2021年度	6	30	53	40.3	8.8
2022年度	12	33	51	41.2	6.1
2023年度	5	25	58	40.4	12.8
2024年度	7	28	52	38.6	7.7
合計	30	25	58	40.3	8.0

参加経路別にみると、2021 年度の自主的参加は 3 人（50.0%）、紹介は 3 人（50.0%）、2022 年度の自主参加 3 人（25.0%）、紹介 9 人（75.0%）、2023 年度の自主参加 2 人（40%）、紹介 3 人（60%）、そして 2024 年度の自主参加者は 2 人（28.6%）、紹介 5 人（71.4%）でした。すべての年度を合わせると自主参加者は 10 人（33.3%）、紹介は 20 人（66.7%）でした。

表 2-2 参加経路

年度	人数・%	参加経路		合計
		自主的	紹介	
2021年度	人数	3	3	6
	%	50.0	50.0	100.0
2022年度	人数	3	9	12
	%	25.0	75.0	100.0
2023年度	人数	2	3	5
	%	40.0	60.0	100.0
2024年度	人数	2	5	7
	%	28.6	71.4	100
合計	人数	10	20	30
	%	33.3	66.7	100.0

注) カイ 2 乗検定、正確な有意確率（両側） $p=0.72$

2-2 調査内容

調査項目は、育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」、2「どちらかといえばはい」、3「どちらかといえばいいえ」、4「いいえ」の 4 件法）、自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」、2「年に 1・2 回ある」、3「月に 1・2 回ある」、4「週に 1・2 回ある」、5「ほとんど毎日」の 5 件法）、子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」、「いいえ」の 2 件法、ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）です。これらの調査項目は、母親を対象とする「MY TREE

ペアレンツ・プログラム」と同じです。

3. 分析方法

3-1 基礎集計

すべての項目について、基礎集計を行いました。

3-2 子育て状況：クロス集計とカイ2乗検定

子育て状況については、プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために、クロス集計を行い、カイ2乗検定を行いました。

調査対象は30人と少ないので、フリーソフト G*Power 用いて、検出力（検定力）を算出しました。カイ2乗検定、自由度1、効果量 $w=0.3$ 、有意水準 $\alpha=0.05$ 、サンプルサイズ23人を入力したところ、検出力（Power）=0.376でした。

統計的検定は、標本（サンプルサイズ）から得たデータ分析結果を母集団にまで一般化するために行われます。一般化するためには、検出力が0.8以上となるような標本（サンプルサイズ）が必要です。なお、このカイ2乗検定を行うためには、調査対象者は88人以上必要となります。

3-3 育児意識と自己評価：ウィルコクソン（Wilcoxon）の符号付き順位検定によるプレとポスの比較

プレとポスの関連をみるために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位検定を行いました。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからです。

フリーソフト G*Power 用いて検出力（検定力）を算出したところ（ウィルコクソンの符号付き順位検定、両側検定、効果量 $w=0.5$ 、有意水準 $\alpha=0.05$ 、対象者23人を入力）、検出力（Power）=0.833でした。今回は、検出力が0.8以上になっていたため、この検定結果を一般化することができます。

3-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポスの比較

育児意識や自己評価の下位尺度得点については、母親を対象とする「2024年度 MY TREE ペアレンツ・プログラム」の因子を活用しました。プログラム実施後に行ったポストアンケート調査のデータを因子分析した結果、それぞれ次のような3因子が抽出されました。育児意識は第1因子「体罰容認」、第2因子「被害感情」、第3因子「悲観的思考」の3因子です。自己評価は第1因子「感情コントロール困難」、第2因子「孤立感・不信感」、第3因子「身体的暴力」の3因子です。因子の下位尺度得点を算出するにあたっては、育児意識や自己評価が否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値しました。「MY TREE 父親プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位検定を行いました。

なお、統計処理を行うに当たっては、人数の少ない対象者の分析が可能な IBM SPSS ヴァージョン29 Exact Test の統計ソフトを用いて正確確率検定を行いました。

4. 調査結果

4-1 子育て状況の変化（表4-1-1、表4-1-2）

子育て状況の基礎集計結果は、表4-1-1に示すとおりです。

また、プレとポスを比較するためのクロス集計とカイ2乗検定を行いました。その結果は、表4-1-2に示す通りです。「Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある」の項目は1%の危険率で有意差があり、ポストの方が「いいえ」が多くなり、肯定的に変化していました。「Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる」については、5%の危険率で有意差があり、ポストの方が「いいえ」が多くなり、肯定的に変化していました。しかし、それ以外の8項目についてはプレとポスの間に有意差はなく、変化は認められませんでした。

表 4-1-1 子育て状況の基礎集計

		プレ		ポスト				プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	17	56.7	17	56.7	Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している	はい	6	46.2	2	20.0
	いいえ	1	3.3	3	10.0		いいえ	7	53.8	8	80.0
	不明	12	40.0	10	33.3		合計	13	100.0	10	100.0
	合計	30	100.0	30	100.0		はい	26	86.7	25	83.3
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	24	80.0	24	80.0	Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	いいえ	4	13.3	4	13.3
	いいえ	4	13.3	5	16.7		不明	0	0.0	1	3.3
	不明	2	6.7	1	3.3		合計	30	100.0	30	100.0
	合計	30	100.0	30	100.0		はい	17	56.7	19	63.3
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	22	73.3	22	73.3	Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	いいえ	11	36.7	10	33.3
	いいえ	6	20.0	7	23.3		不明	2	6.7	1	3.3
	不明	2	6.7	1	3.3		合計	30	100.0	30	100.0
	合計	30	100.0	30	100.0		はい	17	56.7	19	63.3
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	29	96.7	29	96.7	Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	いいえ	11	36.7	10	33.3
	不明	1	3.3	1	3.3		不明	2	6.7	1	3.3
	合計	30	100.0	30	100.0		合計	30	100.0	30	100.0
	はい	29	96.7	29	96.7		はい	18	60.0	17	56.7
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	9	30.0	7	23.3	Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	いいえ	5	16.7	5	16.7
	今	1	3.3	1	3.3		不明	7	23.3	8	26.7
	いいえ	16	53.3	19	63.3		合計	30	100.0	30	100.0
	不明	4	13.3	3	10.0						
	合計	30	100.0	30	100.0						

表 4-1-2 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレ		ポスト		カイ2乗検定による正確有意確率	有意差
		人数	%	人数	%		
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	15	93.8	14	87.5	0.125	ns
	いいえ	1	6.3	2	12.5		
	合計	16	100.0	16	100.0		
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	23	85.2	22	81.5	0.144	ns
	いいえ	4	14.8	5	18.5		
	合計	27	100.0	27	100.0		
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	21	77.8	20	74.1	0.290	ns
	いいえ	6	22.2	7	25.9		
	合計	27	100.0	27	100.0		
Ⅲ-4 子どもの健診(0歳、1歳、3歳児健診など)は受けている	はい	28	100.0	28	100.0	一定のため統計量は計算されません	
	いいえ	0	0.0	0	0.0		
	合計	28	100.0	28	100.0		
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	7	29.2	6	25.0	0.007	* *
	今	1	4.2	0	0.0		
	いいえ	16	66.7	18	75.0		
	合計	24	100.0	24	100.0		
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：(過去のDVが)今も影響している	はい	3	42.9	1	14.3	0.429	ns
	いいえ	4	57.1	6	85.7		
	合計	7	100.0	7	100.0		
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	25	86.2	25	86.2	0.080	†
	いいえ	4	13.8	4	13.8		
	合計	29	100.0	29	100.0		
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	16	59.3	17	63.0	0.224	ns
	いいえ	11	40.7	10	37.0		
	合計	27	100.0	27	100.0		
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	18	66.7	22	81.5	0.295	ns
	いいえ	9	33.3	5	18.5		
	合計	27	100.0	27	100.0		
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	10	66.7	12	80.0	0.022	*
	いいえ	5	33.3	3	20.0		
	合計	15	100.0	15	100.0		

注 * *: $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ † : $0.05 < p < 0.1$ ns:有意差無

4-2 育児意識のプレとポストの比較

（表 4-2-1 の基礎集計と表 4-2-2 のウィルコクソンの符号付き順位検定）

育児意識の基礎集計結果は、表 4-2-1 に示すとおりです。

表 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較（基礎集計）

項目	回答	プレ		ポスト		項目	回答	プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	はい	3	10.0	1	3.3	I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	はい	3	10.0	1	3.3
	どちらかといえばはい	11	36.7	3	10.0		どちらかといえばはい	8	26.7	1	3.3
	どちらかといえばいいえ	9	30.0	13	43.3		どちらかといえばいいえ	8	26.7	6	20.0
	いいえ	7	23.3	13	43.3		いいえ	11	36.7	22	73.3
	合計	30	100.0	30	100.0		合計	30	100.0	30	100.0
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	はい	2	6.7	0	0.0	I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない	はい	13	43.3	3	10.0
	どちらかといえばはい	4	13.3	4	13.3		どちらかといえばはい	9	30.0	4	13.3
	どちらかといえばいいえ	11	36.7	11	36.7		どちらかといえばいいえ	5	16.7	6	20.0
	いいえ	13	43.3	15	50.0		いいえ	3	10.0	16	53.3
	合計	30	100.0	30	100.0		不明	0	0.0	1	3.3
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	はい	3	10.0	1	3.3	I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	合計	30	100.0	30	100.0
	どちらかといえばはい	8	26.7	5	16.7		はい	7	23.3	9	30.0
	どちらかといえばいいえ	8	26.7	11	36.7		どちらかといえばはい	10	33.3	15	50.0
	いいえ	11	36.7	13	43.3		どちらかといえばいいえ	10	33.3	5	16.7
	合計	30	100.0	30	100.0		いいえ	3	10.0	1	3.3
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	はい	2	6.7	2	6.7	I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	合計	30	100.0	30	100.0
	どちらかといえばはい	5	16.7	5	16.7		はい	9	30.0	3	10.0
	どちらかといえばいいえ	9	30.0	9	30.0		どちらかといえばはい	9	30.0	9	30.0
	いいえ	14	46.7	14	46.7		どちらかといえばいいえ	7	23.3	12	40.0
	合計	30	100.0	30	100.0		いいえ	5	16.7	6	20.0
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	はい	1	3.3	0	0.0	I-12 面倒な事には最初からあきらめる	合計	30	100.0	30	100.0
	どちらかといえばはい	10	33.3	2	6.7		はい	1	3.3	2	6.7
	どちらかといえばいいえ	6	20.0	4	13.3		どちらかといえばはい	5	16.7	4	13.3
	いいえ	13	43.3	24	80.0		どちらかといえばいいえ	12	40.0	15	50.0
	合計	30	100.0	30	100.0		いいえ	12	40.0	9	30.0
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	はい	2	6.7	0	0.0	I-13 困った時は、誰かに相談できる	合計	30	100.0	30	100.0
	どちらかといえばはい	6	20.0	1	3.3		はい	7	23.3	10	33.3
	どちらかといえばいいえ	9	30.0	4	13.3		どちらかといえばはい	6	20.0	10	33.3
	いいえ	13	43.3	25	83.3		どちらかといえばいいえ	10	33.3	7	23.3
	合計	30	100.0	30	100.0		いいえ	7	23.3	3	10.0
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	はい	15	50.0	22	73.3		合計	30	100.0	30	100.0
	どちらかといえばはい	7	23.3	7	23.3		はい	7	23.3	10	33.3
	どちらかといえばいいえ	4	13.3	0	0.0		どちらかといえばはい	6	20.0	10	33.3
	いいえ	4	13.3	1	3.3		どちらかといえばいいえ	10	33.3	7	23.3
	合計	30	100.0	30	100.0		いいえ	7	23.3	3	10.0

表 4-2-2 は、プレとポストを比較するために行ったウィルコクソンの符号付き順位和検定を示したものです。「I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ」、「I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ」、「I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ」、「I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない」、「I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない」、「I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ」の6項目については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に低くなっており、ポストの方が否定的な意識に変化していました。

また、「I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない」（逆転項目）、「I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う」（逆転項目）、「I-13 困った時は、誰かに相談できる」（逆転項目）の3項目については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が肯定的な意識になっていました。

この他の「I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる」、「I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ」、「I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う」、「I-12 面倒な事には最初からあきらめる」の4項目についてはプレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はなかったと思われます。

表 4-2-2 育児意識のプレとポストの比較（ウィルコクスの符号付き順位検定）

		人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	30	2.67	3.00	-3.231 ^b	0.001	***
	ポスト	30	3.27	3.00			
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	30	3.17	3.00	-1.064 ^b	0.351	ns
	ポスト	30	3.37	3.50			
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	30	2.90	3.00	-1.468 ^b	0.165	ns
	ポスト	30	3.20	3.00			
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	30	3.17	3.00	-.092 ^b	0.906	ns
	ポスト	30	3.20	3.00			
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	30	3.03	3.00	-3.125 ^b	0.001	***
	ポスト	30	3.73	4.00			
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	30	3.10	3.00	-3.260 ^b	0.001	***
	ポスト	30	3.80	4.00			
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	30	1.90	1.50	-2.818 ^c	0.005	**
	ポスト	30	1.33	1.00			
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	30	2.90	3.00	-3.185 ^b	0.001	***
	ポスト	30	3.63	4.00			
I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない	プレ	30	1.93	2.00	-3.764 ^b	0.000	***
	ポスト	29	3.21	4.00			
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	30	2.30	2.00	-2.840 ^c	0.006	**
	ポスト	30	1.93	2.00			
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	30	2.27	2.00	-2.696 ^b	0.008	**
	ポスト	30	2.70	3.00			
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	30	3.17	3.00	-.966 ^c	0.367	ns
	ポスト	30	3.03	3.00			
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	30	2.57	3.00	-2.562 ^c	0.012	*
	ポスト	30	2.10	2.00			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 負の順位に基づく c. 正の順位に基づく

注2) 尺度：1位「はい」、2位「どちらこといえばはい」、3位「どちらかといえはいえ」、4位「いいえ」

注3) ブルーの網掛けは逆転項目

注4) **: $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ † : $0.05 < p < 0.1$ ns : 有意差無

4-3 自己評価のプレとポストの比較

（表 4-3-1 の基礎集計と表 4-3-2 のウィルコクスの符号付き順位検定）

自己評価の基礎集計結果は、表 4-3-1 に示すとおりです。

表 4-3-2 は、プレとポストを比較するために行ったウィルコクスの符号付き順位和検定を示したものです。

「Ⅱ-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある」、「Ⅱ-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある」、「Ⅱ-6 子どもに暴言を吐いてしまう」、「Ⅱ-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう」、「Ⅱ-8 怒りを子どもに爆発させてしまう」、「Ⅱ-11 つい子どもに怒鳴っている」、「Ⅱ-13 しつけとして、子どもに平手で叩く」、「Ⅱ-14 子どもにげんこつで殴る」、「Ⅱ-15 子どもを足蹴りする」の9項目については、プレよりポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が否定的に変化していました。

この他の「Ⅱ-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある」、「Ⅱ-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う」、「Ⅱ-4 つらいときにも助けをもとめることができない」、「Ⅱ-9 しつけ

として、子どもをベランダや屋外に閉めだす」、「Ⅱ-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す」、「Ⅱ-12 腹がたつと、子どもを無視する」の6項目については、プレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はなかったと思われます。ただし、「Ⅱ-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす」は、ポストの順位が統計的に高い傾向が認められ、ポストの方が否定的に変化している傾向もみられました。

表 4-3-1 自己評価のプレとポストの比較(基礎集計)

項目	回答	プレ		ポスト		項目	回答	プレ		ポスト	
		人数	%	人数	%			人数	%	人数	%
Ⅱ-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	全くない	13	43.3	13	43.3	Ⅱ-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	全くない	5	16.7	13	43.3
	年に1, 2回ある	5	16.7	7	23.3		年に1, 2回ある	5	16.7	12	40.0
	月に1, 2回ある	2	6.7	5	16.7		月に1, 2回ある	7	23.3	1	3.3
	週に1, 2回ある	6	20.0	3	10.0		週に1, 2回ある	10	33.3	3	10.0
	ほとんど毎日	4	13.3	1	3.3		ほとんど毎日	3	10.0	1	3.3
	不明	0	0.0	1	3.3		合計	30	100.0	30	100.0
	合計	30	100.0	30	100.0		全くない	23	76.7	28	93.3
Ⅱ-2 自分の人生は辛いことが多いと思うことがある	全くない	11	36.7	6	20.0	Ⅱ-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	年に1, 2回ある	7	23.3	2	6.7
	年に1, 2回ある	7	23.3	14	46.7		合計	30	100.0	30	100.0
	月に1, 2回ある	3	10.0	5	16.7	Ⅱ-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	全くない	23	76.7	26	86.7
	週に1, 2回ある	6	20.0	2	6.7		年に1, 2回ある	6	20.0	4	13.3
	ほとんど毎日	3	10.0	3	10.0		週に1, 2回ある	1	3.3	0	0.0
	合計	30	100.0	30	100.0		合計	30	100.0	30	100.0
Ⅱ-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	全くない	11	36.7	12	40.0	Ⅱ-11 つい子どもに怒鳴っている	全くない	5	16.7	12	40.0
	年に1, 2回ある	11	36.7	9	30.0		年に1, 2回ある	5	16.7	9	30.0
	月に1, 2回ある	5	16.7	5	16.7		月に1, 2回ある	8	26.7	6	20.0
	週に1, 2回ある	2	6.7	2	6.7		週に1, 2回ある	10	33.3	2	6.7
	ほとんど毎日	1	3.3	1	3.3		ほとんど毎日	2	6.7	1	3.3
	不明	0	0.0	1	3.3		合計	30	100.0	30	100.0
	合計	30	100.0	30	100.0		全くない	20	66.7	21	70.0
Ⅱ-4 つらいときにも助けをもとめることができない	全くない	12	40.0	12	40.0	Ⅱ-12 腹がたつと、子どもを無視する	年に1, 2回ある	2	6.7	6	20.0
	年に1, 2回ある	4	13.3	7	23.3		月に1, 2回ある	3	10.0	2	6.7
	月に1, 2回ある	4	13.3	7	23.3		週に1, 2回ある	5	16.7	0	0.0
	週に1, 2回ある	6	20.0	1	3.3		ほとんど毎日	0	0.0	1	3.3
	ほとんど毎日	4	13.3	2	6.7		合計	30	100.0	30	100.0
	不明	0	0.0	1	3.3	Ⅱ-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	全くない	9	30.0	22	73.3
	合計	30	100.0	30	100.0		年に1, 2回ある	11	36.7	5	16.7
Ⅱ-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	全くない	5	16.7	4	13.3		月に1, 2回ある	4	13.3	2	6.7
	年に1, 2回ある	4	13.3	10	33.3		週に1, 2回ある	6	20.0	1	3.3
	月に1, 2回ある	6	20.0	12	40.0		合計	30	100.0	30	100.0
	週に1, 2回ある	10	33.3	1	3.3	Ⅱ-14 子どもにげんこつで殴る	全くない	17	56.7	27	90.0
	ほとんど毎日	5	16.7	2	6.7		年に1, 2回ある	7	23.3	3	10.0
	不明	0	0.0	1	3.3		月に1, 2回ある	3	10.0	0	0.0
	合計	30	100.0	30	100.0		週に1, 2回ある	3	10.0	0	0.0
Ⅱ-6 子どもに暴言を吐いてしまう	全くない	6	20.0	14	46.7	Ⅱ-15 子どもを足蹴りする	全くない	30	100.0	30	100.0
	年に1, 2回ある	4	13.3	8	26.7		全くない	19	63.3	26	86.7
	月に1, 2回ある	3	10.0	5	16.7		年に1, 2回ある	8	26.7	4	13.3
	週に1, 2回ある	15	50.0	2	6.7		月に1, 2回ある	2	6.7	0	0.0
	ほとんど毎日	2	6.7	1	3.3		週に1, 2回ある	1	3.3	0	0.0
	合計	30	100.0	30	100.0		合計	30	100.0	30	100.0
Ⅱ-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	全くない	9	30.0	15	50.0						
	年に1, 2回ある	5	16.7	6	20.0						
	月に1, 2回ある	8	26.7	7	23.3						
	週に1, 2回ある	6	20.0	1	3.3						
	ほとんど毎日	2	6.7	1	3.3						
	合計	30	100.0	30	100.0						

表 4-3-2 自己評価のプレとポストの比較（ウィルコクソン の符号付き順位検定）

		人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差
Ⅱ-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	プレ	30	2.43	2.00	-2.255 ^b	0.024	*
	ポスト	29	2.03	2.00			
Ⅱ-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	プレ	30	2.43	2.00	-.312 ^c	0.786	n s
	ポスト	30	2.40	2.00			
Ⅱ-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	プレ	30	2.03	2.00	-.247 ^c	0.852	n s
	ポスト	29	2.00	2.00			
Ⅱ-4 つらいときにも助けをもとめることができない	プレ	30	2.53	2.00	-1.609 ^c	0.104	n s
	ポスト	29	2.10	2.00			
Ⅱ-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	プレ	30	3.20	3.50	-2.454 ^c	0.013	*
	ポスト	29	2.55	3.00			
Ⅱ-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	30	3.10	4.00	-3.699 ^c	0.000	***
	ポスト	30	1.93	2.00			
Ⅱ-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	プレ	30	2.57	3.00	-2.600 ^c	0.009	**
	ポスト	30	1.90	1.50			
Ⅱ-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	30	3.03	3.00	-3.551 ^c	0.000	***
	ポスト	30	1.90	2.00			
Ⅱ-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	プレ	30	1.23	1.00	-2.236 ^c	0.063	†
	ポスト	30	1.07	1.00			
Ⅱ-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	プレ	30	1.30	1.00	-1.508 ^c	0.234	n s
	ポスト	30	1.13	1.00			
Ⅱ-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	30	2.97	3.00	-3.191 ^c	0.001	***
	ポスト	30	2.03	2.00			
Ⅱ-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	30	1.77	1.00	-1.565 ^c	0.157	n s
	ポスト	30	1.47	1.00			
Ⅱ-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	30	2.23	2.00	-3.030 ^c	0.002	**
	ポスト	30	1.40	1.00			
Ⅱ-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	30	1.73	1.00	-2.994 ^c	0.001	***
	ポスト	30	1.10	1.00			
Ⅱ-15 子どもを足蹴りする	プレ	30	1.50	1.00	-2.636 ^c	0.008	**
	ポスト	30	1.13	1.00			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく

注2) 尺度:1位「全くない」、2位「年に1, 2回ある」、3位「月に1, 2回ある」、4位「週に1, 2回ある」、5位「ほとんど毎日」

注3) ***: $p < 0.001$ **: $p < 0.01$ *: $p < 0.05$ †: $0.05 < p < 0.1$ ns: 有意差無

4-4 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2)

表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2 からわかるように、自己意識の「第 2 因子孤立感・信頼感」以外の因子については、いずれもプレよりポストの下位尺度得点が有意に低くなっていました。なお、下位尺度得点を算出するにあたっては、得点が低いほど虐待に関する育児意識と自己意識が否定的になるように得点を付加しています。

このことから、「MY TREE 父親プログラム」に参加することによって、育児意識の「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」が軽減され、また、自己評価の「感情コントロール困難」「身体的暴力」も軽減されたことが推察されます。「孤立感・信頼感」については変化が認められませんでした。

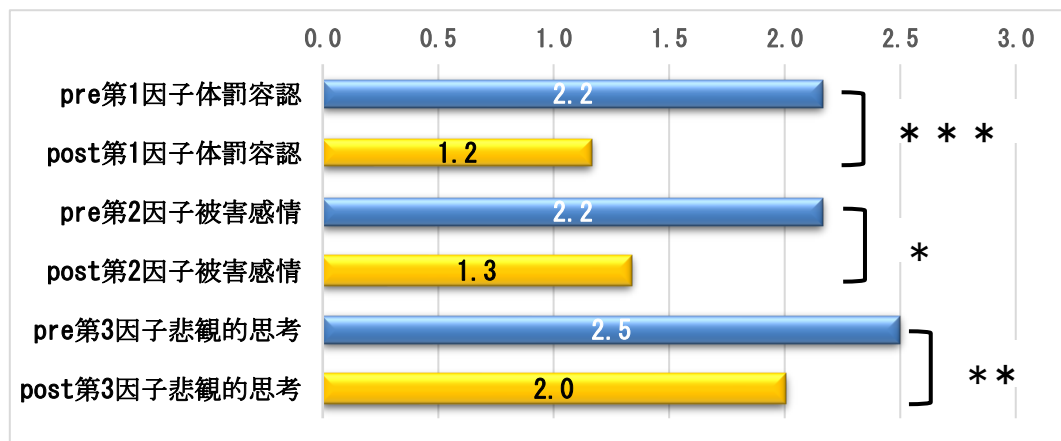
表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

			人数	平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)	有意差
育児意識	第1因子体罰容認	プレ	30	2.1	2.2	-3.612 ^b	0.000	***
		ポスト	29	1.5	1.2			
	第2因子被害感情	プレ	30	2.1	2.2	-2.369 ^b	0.016	*
		ポスト	30	1.7	1.3			
	第3因子悲観的思考	プレ	30	2.4	2.5	-2.798 ^b	0.004	**
		ポスト	30	2.1	2.0			
自己評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	30	2.7	3.0	-3.691 ^b	0.000	***
		ポスト	30	1.8	1.7			
	第2因子孤立感・不信感	プレ	30	2.5	2.4	-1.642 ^b	0.103	ns
		ポスト	29	2.2	1.8			
	第3因子身体的暴力	プレ	30	1.6	1.6	-3.525 ^b	0.000	***
		ポスト	30	1.2	1.0			

注1) Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく

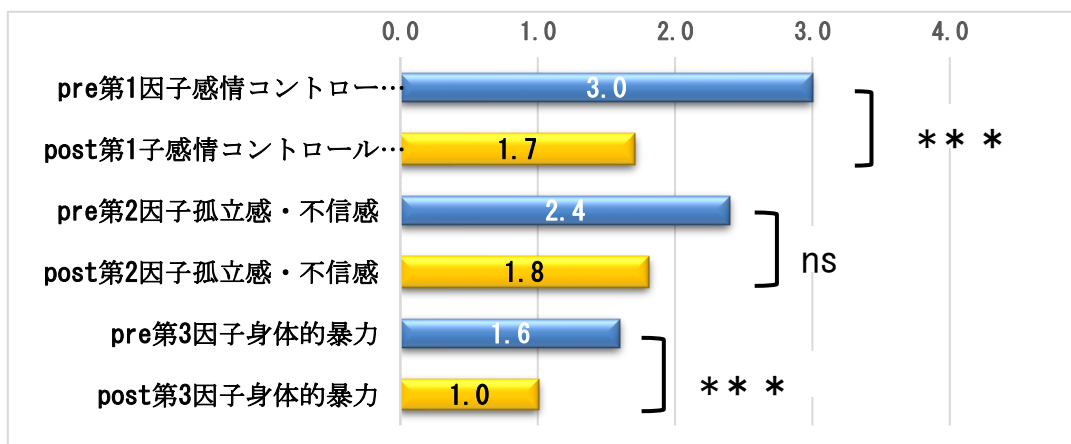
注2) *** : $p < 0.001$ ** : $p < 0.01$ * : $p < 0.05$ ns : 有意差無

図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) *** : $p < 0.001$ ** : $p < 0.01$ * : $p < 0.05$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較



注) *** : $p < 0.001$ ns : 有意差無

5. まとめ（結論）

分析の結果、以下の4点が分かりました。

① 子育て状況について（表 4-1-1、表 4-1-2）

「Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある」の項目は、プレよりポストの方が「いいえ」と応えた人が有意に多くなり、ポストの方が肯定的に変化していました。「Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる」の項目については、プレよりポストの方が「はい」と答えた人の方が有意に多くなり、ポストの方が肯定的に変化していました。しかし、それ以外の8項目についてはプレとポストの間に有意差はなく、変化は認められませんでした。

② 育児意識について（表 4-2-1、表 4-2-2）

6項目（Ⅰ-1、Ⅰ-5、Ⅰ-6、Ⅰ-8、Ⅰ-9、Ⅰ-11）については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に低くなっており、ポストの方が否定的な意識に変化していました。また、逆転項目の3項目（Ⅰ-7、Ⅰ-10、Ⅰ-13）については、プレよりもポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が肯定的な意識になっていました。他の4項目（Ⅰ-2、Ⅰ-3、Ⅰ-4、Ⅰ-12）についてはプレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はありませんでした。

育児意識に関する項目については否定的になる方が望ましく、逆転項目については肯定的になる方が望ましいことから、13項目中、9項目（Ⅰ-1、Ⅰ-5、Ⅰ-6、Ⅰ-7、Ⅰ-8、Ⅰ-9、Ⅰ-10、Ⅰ-11、Ⅰ-13）については、プログラム効果があったと推察されます。

② 自己評価について（表 4-3-1、表 4-3-2）

9項目（Ⅱ-1、Ⅱ-5、Ⅱ-6、Ⅱ-7、Ⅱ-8、Ⅱ-11、Ⅱ-13、Ⅱ-14、Ⅱ-15）については、プレよりポストの順位が統計的に有意に高くなっており、ポストの方が否定的に変化していました。この他の6項目（Ⅱ-2、Ⅱ-3、Ⅱ-4、Ⅱ-9、Ⅱ-10、Ⅱ-12）については、プレとポストの間には統計的な有意差は認められず、変化はありませんでした。

自己評価に関する項目については否定的になる方が望ましく、15項目中、9項目（Ⅱ-5、Ⅱ-6、Ⅱ-7、Ⅱ-8、Ⅱ-11、Ⅱ-13、Ⅱ-12、Ⅱ-14、Ⅱ-15）については、プログラム効果があったと推察されます。

③ 育児意識と自己評価の下位尺度得点について（表 4-4、図 4-4-1、図 4-4-2）

母親を対象とする「2024年度 MY TREE ペアレンツ・プログラム」の育児意識と自己評価に関する項目から抽出された因子を使用し、それぞれの下位尺度得点を算出しました。育児意識については、「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子です。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値しました。

自己意識の「第2因子孤立感・信頼感」以外の因子については、いずれもプレよりポストの下位尺度得点が低くなっており、肯定的に変化していました。このことから、プログラム効果あったと推察されます。

以上のことから、「MY TREE 父親プログラム」については、一定の効果があったことが推察されます。ただし、カイ2乗検定を行った「子育て状況」については、検出力（Power）＝0.376であり、検出力が0.8以下であったので、今回の分析結果を一般化するには限界があります（一般化するためには対象人数が88人必要です）。しかし、「育児意識」「自己意識」のプレ・ポストを比較するために行ったウィルコクソンの符号付き順位と検定については、検出力（Power）＝0.833であり、検定力が0.8以上あったので、対象人数は30人と少ないですが、ある程度一般化できるのではないかと思います。

（2025年7月25日八重樫牧子記）